

事業名：エルメラ県およびリキサ県におけるコーヒーの生産性向上事業
団体名：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン



エルメラ県レテフォホ郡ハトゥガウ村での講義形式の研修後、修了証を受領した参加者たちと PWJ 現地事業責任者永井（写真 2 列目中央）。同村での参加者の多くは住民参加型の苗床作りに非常に興味がある様子で、講義形式の研修中、苗床の作り方について説明すると熱心に聞き入る参加者が目立った。（2013 年 10 月 30 日撮影）



エルメラ県レテフォホ郡ハトゥガウ村での苗床作りの様子。例年より早く来た雨季の影響で天候に恵まれない日が続く中、講義形式の研修参加者が全員集まり作業を行った。参加者からは「苗床作りを体験したことはなかったので、良い経験になった。早く苗木が育ち、自分の圃場に新植するのが待ち遠しい」といった声が聞かれた。（2013 年 11 月 29 日撮影）

事業名：エルメラ県およびリキサ県におけるコーヒーの生産性向上事業
団体名：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン



エルメラ県レテフォホ郡ドゥクライ村での苗床作りの様子。同村での苗床設置場所は、講義形式の研修後、参加者が自発的に話し合いの機会を設け決定した。苗床作りには家事の合間を縫って女性も積極的に参加し、苗床作りへの関心の高さが伺えた。(2013年12月5日撮影)



エルメラ県レテフォホ郡ハウプ村にて、完成した苗床と実地研修参加者の様子。「まだ手入れをしていない空き地があるので、開墾しここで自分たちが育てたコーヒーの苗木を新植したい。子どもたちが大きくなる頃にはコーヒーの木に実がたわわに生っていることを考えると嬉しくなる」との声が参加者から聞かれ、コーヒーの木の新植が将来の収入向上に繋がることが認知された様子だった。(2013年12月10日撮影)

事業名：エルメラ県およびリキサ県におけるコーヒーの生産性向上事業
団体名：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン



エルメラ県レテフォホ郡ハウプ村の苗床にあるシェードツリー、種植え後約6ヵ月の様子。今後、さらに4ヵ月程度かけ樹高が20cmから30cm程度に成長してから圃場到新植する。シェードツリーは樹高が高く成長することから、日光に弱いコーヒーの木を守るために影をつくることができる。よって、コーヒーの木の移植をする際にはシェードツリーの移植も不可欠である。(2014年1月31日撮影)